

ふるさと大使 かわら版

2019年秋季号 (通巻93号)

<当会のホームページ>

<https://www.furusatotaishi.com>

■ 本会のシンボルマークは、大使同士の情報交換及び、その委嘱者との相互交流を主眼に図案化。4つのモチーフからなり、山（緑色／地方・故郷・自然）と矩形（青色／都会・テクノロジー）と円及び輪（黄、橙／人・情報・ネットワーク）を表現。

HEAD LINE

【1面】「ふるさと大使」 821団体・971制度に問われる委嘱のあり方、活動の中身

【2面】 ふるさと大使夏季交流会
日本の木と森の文化について

——佐藤岳利

【3面】 かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦

——坂本信雄

・上田市で認知症対策に「ふるさと音頭」活用

——山口義夫

【4面】「ふるさとサロン」第1回・第2回を開催
・「ふるさとサロン」にいらっしやい

——伊藤美智子

・長野の紹介とワインを堪能

——伊東良平

【5面】 素晴らしい集い「ふるさとサロン」

——穂山貞夫

・山形の話と美味しいものに感激

——MOKO

【6～11面】 全国のふるさと大使制度一覧表

【12面】「今も息づく怪談の街」 松江

——島村治雄

【13面】 生業で地域文化を興す/起こす

——一瀬要

・酒田湊まつりで花火ショーを堪能

——鴨川キヨ

【14面】 鉄と魚とラグビー7連覇のまち釜石

——佐藤富士郎

・函館バル街、サントリー地域文化賞受賞を喜ぶ

——浅田和幸

【15面】「被災地域の酒を飲む会」を100回続けて

——橋本正法

・新会員のひと言

——佐々木正蔵

【16面】 新年会員交流会のご案内

・第3回ふるさとサロンのご案内

・全国ふるさと大使連絡会議の概要、編集後記他

「ふるさと大使」 821団体・971制度に ——問われる委嘱のあり方、活動の中身

全国ふるさと大使連絡会議が調べた各地の「ふるさと大使」制度は、全国で821団体、971制度となった。昨年10月以降に6団体が新設されたほか、新たに判明した制度も含めると、前年同期より12団体・20制度増加した。内訳は都道府県が44団体・90制度、市町村が630団体・731制度、観光協会など諸団体が147団体・150制度。

兵庫県芦屋市は今年3月、大相撲の新大関・貴景勝関を「芦屋ふるさと大使」第1号として委嘱した。佐賀県神埼市も3月、「神埼市ふるさと大使」として日本ハンドボールリーグのトヨタ紡織九州「レッドトルネード」を委嘱した。同市は一昨年秋にふるさと大使設置要綱を設けていたが、委嘱は今回が初めて。

岡山県新見市は今年6月、「新見市ふるさと大使」第1号に、同市出身のプロ野球・巨人の高田萌生投手を委嘱。高知県南国市は今年10月の市制60周年を記念して「南国市観光大使」を創設、演歌歌手の三上ひろしさんを初委嘱した。

宮城県登米市は9月、初の「とめふるさと大使」として同市の施設「森舞台」や「登米懐古館」の設計に携わった世界的建築家の隅研吾さんを委嘱した。同市は昨年、公募方式の「市シティープロモーションサポーター」制度をスタートしており、両輪で市の魅力発信・認知度向上を目指す。

福岡県芦屋町は「芦屋町ふるさと観光大使」を今年3月に創設、同町を舞台に制作、昨秋から公開された映画「夏の夜空と秋の夕日と冬の朝と春の風」の向井宗敏監督と主題歌を歌う「ハジメ」さんの2人を委嘱した。

全国的な制度の広がりにはそろそろ落ち着いたようで、そろそろ制度の中身を問う時期にきたのかもしれない。

今年の制度新設では、有名人一人を委嘱することで制度をスタートした例が目立つ。まず導入して、随時制度を充実させていこうというのは無難な手法なのだろう。大使をどのように選定するかは難しい。芦屋町の場合、制度新設に関連して、議会で町長が、「観光大使は芸能界、スポーツ界などで広く名前が知られていることが条件になるのでは」という趣旨の答弁をされている。知名度が高ければPR効果も高いだろうから当然の発想かもしれない。ただ、委嘱された側が発信もせず、記憶にすらないという例も散見される。逆に故郷愛を重視して大都市圏の町出身者団体の世話役などを委嘱している例では行動力を発揮することも多い。要は「ふるさと大使」が何をするかである。

その点で、愛知県東海市の制度は興味深い。同市ではふるさと大使の委嘱には選考委員会の決定が必要で、ふるさと大使設置要綱の解釈・運用基準や選考基準も細かく規定し、選考委員会も公開で実施している。大使の役割とそれを支える市の役割も明確にしている。首長の思い付きや主観で委嘱する一方、職員や市民はよく知らないといった例が各地でみられるなか、このような厳密な仕組みを採用している自治体は珍しい。同市では市役所のロビーにふるさと大使の色紙や関連グッズを展示するなど、市民と大使の双方向の関係構築に力を入れており、大使もまた地元のイベントなどに頻繁に登場する。こんな“生きた制度”は大いに参考にしたい。

最近1年間に創設された主な大使制度

制度開始	都道府県	委嘱団体	大使名
19.3	佐賀	神埼市	神埼市ふるさと大使
19.3	福岡	芦屋町	芦屋町ふるさと観光大使
19.3	兵庫	芦屋市	芦屋ふるさと大使
19.6	岡山	新見市	新見市ふるさと大使
19.9	宮城	登米市	とめふるさと大使
19.10	高知	南国市	南国市観光大使

(注) 制度開始は創設日または委嘱開始日

2019 ふるさと大使夏季交流会

森林・農業をテーマに講師他3名もスピーチ

ふるさと大使夏季交流会が7月26日、恒例の「KKRホテル東京」11階 丹頂の間で開催され、43名の参加をいただきました。

浅田和幸代表の挨拶の後、今回幹事の鈴木克也さん(はこだて観光大使)がメインゲストの(株)ワイス・ワイス社長・佐藤岳利氏を紹介、「日本の木と森の文化について」のテーマで講話をしていただきました(詳細は別項)。

また、高知県東京事務所チーフの北代修志さん、日本エコクラブのホタル太郎さん、湯沢市ふるさと応援大使で、あきたいざたん事務局長の高橋純一さんのお三方にも、森林や農産業の大切さに関連したお話や活動紹介などのスピーチをしていただき、田子町ふるさと大使の向井靖雄さんにはにんにくの町のふるさと自慢をしていただきました。

初参加者自己紹介タイムでは、俳優の横内正さんが同じ北九州市観光大使の縁でお連れした元テレビ朝日アナウンサーの佐々木正洋さんが各地を回られた経験などを紹介。また、農と食女性協会代表の伊藤淳子さん、秋の全国大会で講師にお願いしている淑徳大学教授の芹澤高斉さんらの挨拶が続きました。

休憩の後はお楽しみの懇親・交流会。山口義夫顧問の乾杯の発声でスタート。お酒とお料理を楽しみながら、交流の輪が広がりました。

余興では、あったかふくしま観光交流大使・いしかわ観光大使の野口雅代さんがコインや紙を使ったマジックを披露されました。その後、桜井けいさんや池田さなえさんら歌手の皆さんが持ち歌を披露、華やかな空気が広がり、最後は会場一体となった「ふるさと音頭」の歌でお開きとなりました。



日本の木と森の文化について

(株)ワイス・ワイス代表取締役 佐藤岳利氏

私はインテリアデザインの会社に勤めていましたが、十数年前、木と森の大切さに気付き、地域の森を守り育てるため会社を創業しました。

考えてみれば、私たちの地球は酸素のおかげで多様な生命が誕生するようになり、人間は森で発生する酸素を一日に20kgも使ってやっと生きているのです。

その後、文明の発達で人々は森から離れますが、木と森への感謝と恩恵の念とともに、「木と森の文化」といえるものを持ち続けてきました。ここに法隆寺の写真がありますが、この建物は今から1300年前に木造で造られた建物ですが、今でもびくともしていません。今、建てられている日本の建築物が寿命30年とされているのと比べて何と奥深いものでしょう。

円空という坊さんが全国を回りながら12万体の仏像を彫りましたが、彼は木の中に神が宿っていて木から自然と生まれ出てくるものだと言っていました。

日本人はそれほど木や森への深い想いを持ってきたのですが、それが最近脅かされるようになってきたのです。

それは私たちの生活や産業が安くて便利なものを追い求めるあまり、世界の熱帯雨林を違法伐採し、低賃金で働かせ、それをどんどん輸入するようになったことが原因で、日本の

製材所や森にかかわる産業が崩壊し始めたのです。森林経営が成り立たなくなり、森の手入れもできなくなり、森が荒れ放題となっているのです。

こんなことでよいのかと思い、私が新しい会社をつくったのですが、実際にやってみると大変でした。

まずは建材や家具づくりに国産材を使おうということです。しかし、どうしてもコストが高くなってしまいます。今のところは50%以上を国産材とし、最低限、違法伐採のものは使わないようにしています。

もう一つは地産地消の考え方で、地方の需要は地方の産地でまかなおうということで、地方の林業関係者とネットワークを組むことです。これには手間もコストもかかりますが、私の役割だと思っています。

このことにこだわって十数年努力してきましたが、ここにきてようやく軌道に乗ってきたように思います。

もう一つは家具や工芸品については作り手の想いをメッセージとして消費者に伝えることにより、製品の高付加価値化を図ることです。

その例として、福島県の「くりこま木材」の家具をブランド化することにしました。大震災と重なり、この地域は大変な被害を受けましたが、この取り組みのおかげで人材を守り、育てることができました。

このような努力をすれば、日本の林業は十分成り立つし、結果として日本文化そのものを発展させることができると確信しました。皆様もご一緒に参加いただきたいと思います。

(文責・鈴木克也(理事))



かめおか



京都先端科学大学名誉教授 坂本 信雄
(元秋田県鹿角市ふるさと大使)

京都市に隣接する亀岡市は2018年12月、プラスチック製レジ袋の使用禁止や家庭から出るプラスチックごみの回収率100%達成を明示した条例制定の方針を発表した。2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指している。

亀岡市を流れる保津川は淀川の上流である桂川につながっており、平安時代から京の都を支える物資の運行の川として知られてきたが、今日では嵯峨嵐山までの急流の川下りとして年間約25万人の観光客で賑わっている。しかし、保津川の川岸にはごみが散乱していることが多く、ごみを回収しても豪雨時には大量のごみが流れ着いてくるという繰り返しである。

当初は川下りの船頭さん達がゴミの回収に取り組んでいたが、これを組織的に取り組むことが望ましいことから2007年、「プロジェクト保津川」（現在はNPO法人）が設立された。筆者は設立当初に関わったことから初代



の代表として毎月の早朝清掃活動に取り組むことになった。

清掃活動は流域の自治会を巻き込むなど或る程度広がってきたが、ペットボトルや様々な袋、シートなどのプラスチック製品の回収に追われる状況に変わりがない。また、ゴミの氾濫は流域に生息するアユモドキ（絶滅危惧種）の生態系にも影響することも懸念されてきた。2012年には内陸部の自治体では初めてとなる「海ごみサミット」が開催されてプラスチックごみ発生抑制を骨子とする大会宣言が採択された。

プラスチックごみ問題は政府や国連などでも取上げられているが、亀岡市の取り組みは有料、無料を問わず来客店での提供を禁じる内容であり、これは全国で初めてとなる。しかも違反すれば指導・勧告のうえ事業者名の公表付き条例を目指している。その後、大阪府の八尾市、北九州市、さいたま市などでもプラスチックごみ削減の宣言をするなど、プラスチックごみゼロへの取り組みが広がりつつあるようだ。

市内では既にスーパーなどの小売店ではレジ袋の有料化が始まっており、買い物客のエコバック持参率が次第に高まっているが、市民にレジ袋有料化や提供禁止の方針が十分、浸透しているわけではない。また、レジ袋の全面禁止は違反店舗を公表する罰則であり、小規模の事業者にとって紙袋での販売品を提供すればコスト高になり、実施へのハードルが高いとする向きもある。

折しも10月の市長選挙では現職の候補者がこれを積極的にアピールしたのに対して、新人候補は「罰則規定は拙速」との論戦になり、大きな争点になった。結果はこれを提唱し、推進した現職が大差で当選した。地球温暖化への対応は待ったなしの状況であり、亀岡市の取り組みは市のイメージアップの高まりにつながるなど、環境先進都市として大いに注目される動きであり、地域社会そして日本を動かす布石にもなりえよう。



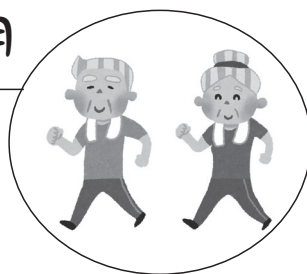
上田市で認知症対策に当会の「ふるさと音頭」活用

長野県上田市在住の(株)ニコエコ会長工藤馨氏は小生の学友ですが、なかなかのやり手で、市の行政（高齢者支援対策担当）・民生委員と一緒に「歌と踊り」でこれから増加する多数の「団塊の世代」活性化対策として、仕事一筋で生きてきて定年を迎えた元サラリーマンを対象にして「70代の認知症を1割減少する」計画を立て、官民一体となって歌と踊りによる取り組みを始めている。



当会のイメージソング「ふるさと音頭」は工藤氏の好きな「木曾路の女」を歌った原田悠里の歌でもあることから、早速そのCDを欲しいとのことで注文を受け、15枚ほど送付し、さらにあと10枚ほど追加注文を受けた。現在、この「ふるさと音頭」のCDを高齢者の集まりで行う歌と踊りに使って認知症対策に活用している。

当会の「ふるさと音頭」の歌詞は会員の皆様がご存じのように、特定の地域の歌でないことから、全国各地のふるさと大使の皆さんにも活用いただければと思います。
(当会顧問 山口義夫)



「ふるさとサロン」第1回・第2回を開催

各20名が参加、地酒と特産品で和やかに歓談

かわら版前号（夏季号）でご案内した通り、ふるさとの自慢・紹介をしながら交流する「ふるさとサロン」を9月、10月と続けて神田神保町の「ブックカフェ二十世紀」で開催しました。

9月4日（水）の第1回は20名が参加。長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」の小山浩一所长（写真右）と高野健一係長にお越しいただき、プロジェクターを使って長野県の現況やトピックスを紹介のほか、銀座NAGANOについても、「単なるアンテナショップではなく、信州の幸せをシェアする場」「信州と首都圏がつながる場」などをコンセプトにしているとPRされました。



この後、ニセコ町観光大使の穂山貞夫さんがニセコ町の四季の風景や観光地をプロジェクターで紹介、続いて長野県南相木村応援団の浜田靖彦さんが「人口1000人の小さな村だが、星空が美しく、7つの滝めぐりなど観光スポットも豊富」とPR。また(株)リリピアの齋田和夫社長がQRコードを進化させた画像認識システムの実演を披露されました。

テーブルには、長野県特産の長門牧場の味噌チーズや乾燥

リンゴ、わかさぎ空揚げ、千曲の干し杏子などのつまみが用意され、小山所長から差し入れの井筒ワインを味わいながら、交流・懇談の輪が広がりました。

10月2日（水）の第2回は顔ぶれが変わりながらやはり20名が参加。ゲストの山形県東京事務所の遠藤和之副所長（写真右）が「おいしい山形」などの説明のほか、清酒の産地として全国で初めて県全体がGI（地理的表示）の指定を受けたことや、世界最大のワイン品評会・IWVCで金賞受賞数6年連続日本一、を紹介、中華そば（外食）の支出額が日本で「山形ラーメン」が至る所にある、といったあまり知られていない話が披露され、一同大いに感心していました。



参加者からのプレゼンは光楓座代表理事の佐藤建吉さんが郷里・山形県鶴岡市の自慢などを披露したほか、銚子観光大使の和泉大介さんが高校時代から銚子電鉄の応援をしてきた話などを披露されました。

この日は、山形の「だし」、芋煮、玉こんにゃく、からし漬けなどの特産品をつまみに、県から差し入れの地酒「初孫」を味わった後、無償提供された県産米の「つや姫」「雪若丸」でつくった「米沢牛入りサラミおにぎり」で締めくくりました。

「ふるさとサロン」にいうっしやい

ムゲンシステム(株)・専務取締役 伊藤 美智子

前回のかわら版で案内があった当会の新しい取り組みである「ふるさとサロン」ですが、9月4日に第1回 長野県、10月2日に第2回 山形県が開催されました。NPO 法人地域交流センターとの共催で、都道府県の東京事務所長・職員又はアンテナショップ館長等を招いて、地域紹介のプレゼンを聴き、参加者がふるさと情報を交換し合うイベントです。各地域の新しい情報を知ることができ、地域の魅力を再発見できる場でもあります。

毎回、地域の特産品が提供されるのも魅力です。第1回では長野県南相木村の新鮮野菜ケールのお土産つき、

第2回では、芋煮（醤油味・牛肉）、玉こんにゃく、民田茄子芥子漬、つや姫と雪若丸のおにぎり食べ比べ、地酒の呑み比べ等があり、山形県を堪能しました。次回はどの都道府県かしらと、毎回楽しみです。

小規模開催なので、参加者全員の顔が見える、ほっこりするイベントです。

また、本屋さんの2階なので、本棚に囲まれて色々な本の装丁を鑑賞しながらというシチュエーションも斬新で、知的好奇心が刺激され、訪問するのがワクワクします。

長野の紹介とワインを堪能

ふるさとの紹介やPRを飲食しながら交流する気軽な集い「ふるさとサロン」というものが開催されるということで、9月4日の第1回に参加した。

この日は長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」の所長・小山浩一さんがゲストで、まずは小山さんからショップの紹介や長野についてのお話があり、その後数名がそれぞれのふるさと自慢をする。

会場は神保町の「ブックカフェ二十世紀」で周りには本棚が並び、素敵な雰囲気だ。私の隣で話をしていた長野県南相木村応援団の浜田康彦さんも前に出てプロジェクターを使ってアピールする。サロンというのがぴったりでお酒を飲みながらゆったりとふるさとの話を聞けるのがいい。八ヶ岳の一

角の南相木村は私も行ったことがあるが、村のことはほとんど知らなかったので紹介の話を聞くと興味が湧いてきた。

近年、外国人に人気が高いニセコ町観光大使の穂山貞夫さんのお話も興味深く、後日、穂山さんお勧めの「北海道フェア」（代々木公園で開催）に出かけるきっかけともなった。

小山所長が持参された井筒ワインが特においしく、味を楽しみながら参加のみなさんとも交流できて、いい時間を過ごすことが出来た。とても面白い企画で今後もぜひ参加したいと感じている。

(株)気動代表取締役 伊東良平



素晴らしい集い「ふるさとサロン」

全国ふるさと大使連絡会議がふるさとの紹介・PRをしなから飲食し、気軽な集いを目的として「ふるさとサロン」を発足され、「第1回ふるさとサロン」が去る9月4日に開催され、参加しました。

8月29日、同会の浅田和幸代表より「東京ニセコ会さんもふるさとサロンにお越し頂けませんか」とのメールが届きました。その日の予定は空いていましたので、参加の表明を即回答出来たのですが、「できればニセコ町のPRをして頂ければありがたいのですが、如何ですか」の文言に引っかかり、暫く悩む羽目になりました。

マイク片手に話すだけでは纏まりが付かない。プロジェクターを使用すると準備期間が短すぎる。色々悩んだ末、ニセコ町からプロジェクター用データを提出して貰うことで、間に合わせることが出来ると判断し、参加の意を伝えさせて貰いました。タイトルは「農業・観光とSDGsに取り組むニセコ町」と決め臨みました。

発表のトップは長野県信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO」小山所長でした。

どうしてアンテナショップではなく、活動拠点としてブランドの高い銀座に「銀座NAGANO」を設置したかでした。非常に丁寧にプロジェクターを使用し説明されていました。まずは「銀座NAGANO」に行ってみようという気持ちに駆り立てられました。

二番目は当会で、何とか機会を生かして貰いました。20名前後の少人数で飲食しながら、ふるさとを知って貰えること、他の市町村の現状と創生に向けた取り組みや起業され将来を託す姿勢を共有し合うという企画は素晴らしい集いと思いました。

東京ニセコ会会長 穂山貞夫（ニセコ町観光大使）



山形の話と美味しいものに感激

10月の東京で真夏日が2日続いたのは6年ぶりという、10月なのに暑かった2日、神田神保町のブックカフェ二十世紀で、NPO法人地域交流センターとの共催による「第2回ふるさとサロン」が開催され、参加してきました。

前回の長野県に続き、今回はゲストスピーカーとして山形県東京事務所副所長の遠藤和之氏を迎え、山形県の近況などを伺いました。

日本一の美酒県、羽黒山五重塔などの国宝がある、故ケネディ大統領をはじめ外国の方からも称賛されている、など数々の素晴らしい山形県の紹介がありました。

でも私が一番驚いたのは、ある調査で福岡県や北海道を抑え、日本一のラーメン県としてランキングされたということでした。だって「山形ラーメン」って、私は聞いたことがありません。そしてどんな味という特徴もないそうなのです。なのに、なぜ日本一のラーメン県かというと、それぞれの町に美味しいラーメン屋があり、お客様のおもてなしもラーメンなんだそうです。チェーン店などはないようです。だけでもしお知り合いに山形の方がいらしたら、その方のお好きなラーメン屋を教えていただき食べに行ってみるとよいと思います。だって「それぞれの味があって、でも絶対美味しいから」と会場にいらした山形県人の方がおっしゃっていましたので。私も山形にラーメン食べに行きたいな。

そして山形の美味しいものも色々いただきました。最近では東京のスーパーでも買えるようになっただしをはじめ、いも煮、こんにゃく、からし和えのなす。また貴重な体験も、昨年



平成30年に本格デビューした米「雪若丸」と「つや姫」の食べ比べです。「つや姫」は、しっかり濃い米の味、「雪若丸」はしっかりした粒立ちが特徴で、遠藤さんによれば、カ

レーなどにお勧めとのことでした。

最後に、とっておき情報も。山形県の果物といえばさくらんぼですが、なんと五百玉と同じくらいの大きさの粒の大型品種のさくらんぼ

「紅王(べにおう)」が令和4年にプレデビューするそうです。五百円玉くらいの大きさ！食べでがありそうで、楽しみです。

食いしん坊の私なので、印象に残っているのは食べ物ばかりでごめんなさい。あっそうそう、ある番組で取り上げたという生け垣の話もありました。でもこれは、深い意味がありそうなので、もっと詳しくお話を聞いて、いずれ講談に仕立てますので、お楽しみに。

今回は、どうやら地域が偏っていたようです。でもこれは次回にそちらの地域のお話をしてくださる為だと、私は解釈しました。遠藤さんの次回のお話を楽しみにしています。

本に囲まれた場所での、山形県のお話と美味しいもの、とても素敵な時間でした。

このブックカフェ二十世紀では、落語会なども開催しているとか。また何か自分で企画して行うことも出来るそうです。駅から近いし、良い空間でした。

放送作家 MOKO／もこ（滝沢とも子）



全国のふるさと大使制度（2019年10月10日現在＝全国ふるさと大使連絡会議調べ）

都道府県	市町村長委嘱の制度（各都道府県の右欄は知事委嘱の制度）		
北海道	・北海道観光大使 ・北海道ふるさと応援大使		
	紋別市： 紋別市PR大使 根室市： 根室味覚観光大使 旭川市： 旭川観光大使 夕張市： 夕張観光大使 登別市： 登別鬼大使 函館市： はこだて観光大使 士別市： 士別ふるさと大使 室蘭市： 室蘭ふるさと大使 石狩市： いしかり観光大使 釧路市： 釧路市観光大使 名寄市： ・名寄ふるさと大使 ・名寄観光大使 滝川市： ・滝川市名誉観光大使 ・滝川市応援大使 ・滝川市ふるさと大使 北斗市： ・北斗市観光大使 ・北斗市ふるさと大使 名寄市： ・名寄観光大使 ・名寄ふるさと大使 ・名寄ひまわりまちづくり大使 北見市： きたみ観光大使 札幌市： ビールのまちさっぽろピア大使	石狩市： いしかり観光大使 稚内市： 稚内市観光大使 厚真町： 厚真町観光大使 浦臼町： うらうす・ふるさと夢大使 浜中町： 浜中町ふるさと大使 恵山町： えさんマグマ大使 栗山町： 栗山町ふるさと大使 音更町： 音更町応援大使 江差町： 江差町観光大使 新得町： 新しく得をする町特命大使 浦幌町： うらほろアンバサダー ニセコ町： ・ニセコ町温泉大使 ・ニセコ町観光大使 奥尻町： 奥尻島観光大使 佐呂間町： サロマ大使 松前町： 松前町観光大使 東川町： 東川町観光大使 礼文町： 礼文町観光大使 新ひだか町： ・新ひだか町ふるさと大使 ・新ひだか町サポート大使 足寄町： 足寄町ふるさと大使 豊浦町： 豊浦ふるさと大使	幌延町： 幌延町観光大使 剣淵町： 剣淵町ふるさと大使 八雲町： 八雲町観光大使 むかわ町： むかわ町ふるさと大使 上川町： 上川町ふるさと夢大使 木古内町： 木古内町観光大使 洞爺湖町： とうや湖観光大使 秩父別町： 秩父別町ふるさと大使 寿都町： 寿都町ふるさと大使 別海町： 別海町観光大使 余市町： 余市観光応援大使 沼田町： 沼田町ふるさと大使 七飯町： 大沼観光大使 今別町： 今別町ふるさと大使 美深町： 美深町観光大使 月形町： 月形町観光大使 幌加内町： 幌加内そばの里大使 増毛町： 増毛やん衆観光大使など 白老町： 白老町観光大使 猿払村： 猿払村観光大使 札幌市手稲区： 手稲区親善大使
青森県	・元気あおもりに応援隊 ・青森県文化観光大使		
	弘前市： 岩木山ふるさと大使 黒石市： 津軽 黒石市観光大使 八戸市： ・八戸特派大使 ・八戸スポーツ大使 青森市： 青森市観光大使	十和田市： 十和田奥入瀬観光大使 三沢市： 三沢市観光大使 深浦町： のぼる夕陽のふかうら大使 おいらせ町： おいらせ町ふるさと大使 田子町： 田子町ふるさと大使	鯨ヶ沢町： 鯨ヶ沢町ふるさと大使 大間町： 大間町観光大使 西目屋村： 好きです西目屋ふるさと親善大使 藤崎町： ふじりんごふるさと応援大使
岩手県	・希望郷いわて文化大使 ・いわて親善大使		
	盛岡市： みちのく盛岡ふるさと大使 大船渡市： ・さんりく・大船渡ふるさと大使 ・おおふなと復興応援特別大使 陸前高田市： 陸前高田ふるさと大使 北上市： 北上しらゆり大使 遠野市： 民話のふるさと遠野大使	釜石市： 釜石応援ふるさと大使 久慈市： 北三陸久慈市ふるさと大使 花巻市： 花巻イーハトーブ大使 奥州市： 奥州大使・奥州名誉大使 滝沢市： チャグチャグ馬コの里、滝沢ふるさと大使 八幡平市： 八幡平市ふるさと大使	雫石町： 雫石町観光大使 平泉町： 平泉観光大使 金ケ崎町： 金ケ崎ふるさと大使 岩手町： 岩手町ふるさと大使 山田町： 山田町ふるさと大使 洋野町： 洋野町ふるさと大使
宮城県	みやぎ絆大使		
	気仙沼市： リアスさんりく気仙沼大使 大崎市： おおさき宝大使 塩竈市： しおがま文化大使 白石市： 白石市観光大使 仙台市： 仙台観光アンバサダー 大崎市： おおさき宝大使	東松島市： 東松島復興ふるさと大使 伊達市： 伊達なふるさと大使 登米市： ・とめふるさと大使 ・登米市プロモーションサポーター 大和町： 大和町・まほろば大使 村田町： 村田町夢大使	南三陸町： 南三陸夢大使 亘理町： 伊達なわたり旅～観光親善大使 松島町： 松島町観光親善大使 加美町： 加美町観光大使
秋田県	・あきた美の国大使 ・あきたベジフル大使 ・秋田の応援団		
	湯沢市： 湯沢市ふるさと応援大使 にかほ市： にかほ市ふるさと宣伝大使 由利本荘市： 由利本荘市ふるさと応援大使 横手市： 横手市観光親善大使 大館市： 大館市観光大使	秋田市： 秋田市観光クチコミ大使 能代市： 能代PR大使 潟上市： 潟上市ふるさと観光大使 仙北市： 仙北市観光大使 北秋田市： 北秋田市ふるさと大使	小坂町： 小坂町観光大使 美郷町： 美郷町ふるさと観光大使 三種町： 三種町ふるさとPR大使 羽後町： 羽後町観光宣伝大使
山形県	・やまがた特命・つや姫観光大使 ・「食の都庄内」親善大使		
	新庄市： 新庄藩江戸家老 酒田市： ・酒田北前大使 ・酒田ふるさと観光大使 米沢市： おしょうしな観光大使 東根市： さくらんぼ親善大使 天童市： ・天童市ふるさと大使	尾花沢市： 尾花沢市ふるさと大使 長井市： ふるさと長井しあわせ応援大使 鶴岡市： 鶴岡ふるさと観光大使 上山市： 上山市特命観光大使 西川町： 月山ふるさと大使 白鷹町： 白鷹町ふるさと交流大使	遊佐町： ・ゆぎ親善大使 ・遊佐ビジネス大使 小国町： ・小国町白い森観光大使 ・小国町白い森ふるさと大使 真室川町： まむろがわ大使 鮭川村： 鮭川観光大使

	・天童観光大使	高島町： まほろば観光大使	
福島県	・しゃくなげ大使 ・あったかふくしま観光交流大使		
	いわき市： ・サンシャイン大使 ・いわき応援大使 会津若松市： 会津大使 郡山市： フロンティア大使 喜多方市： ・きたかた応援大使 ・喜多方市ふるさと特別大使 南相馬市： 南相馬市ふるさと大使	白河市： しらかわ大使 福島市： 福島市もりん大使 伊達市： 伊達なふるさと大使 下郷町： 下郷ふるさと大使 只見町： 只見町広報員 川俣町： 川俣町ふるさと大使 矢祭町： 矢祭町観光大使	小野町： 小野町観光大使 北塩原村： 裏磐梯観光大使 昭和村： “やさい王国”昭和村ふるさと大使 川内村： かわうちふるさと応援大使 湯川村： 湯川村文化親善大使 飯館村： 飯館村までい大使
茨城県	いばらき大使		
	水戸市： 水戸大使 鹿嶋市： かしま大使 潮来市： 水郷いたこ大使 古河市： 古河大使 つくば市： つくば大使 常陸太田市： 常陸太田大使 常陸大宮市： 常陸大宮大使 龍ヶ崎市： 龍ヶ崎市ふるさと大使	那珂市： 那珂ふるさと大使 稲敷市： 稲敷ふるさと大使 筑西市： 筑西ふるさと大使 常総市： 常総ふるさと大使 行方市： なめがた大使 下妻市： 下妻市観光大使 石岡市： 石岡市ふるさと大使 かすみがうら市： かすみがうらふるさと大使	笠間市： ・笠間特別観光大使 ・かさま応援大使 ・笠間サポーターズ 大洗町： 大洗大使 茨城町： 茨城町ふるさと大使 美浦村： 美浦村ふるさと大使
栃木県	とちぎ未来大使		
	宇都宮市： 宇都宮市口コミ特派員 小山市： 小山評定ふるさと大使 大田原市： ・大田原市ふるさと大使 ・大田原市国際親善大使 矢板市： つつじの郷・矢板ふるさと大使 鹿沼市： かぬまふるさと大使	足利市： あしかが輝き大使 下野市： 輝け下野エール大使 佐野市： 佐野ふるさと特使 栃木市： 栃木市ふるさと大使 茂木町： もてぎふるさと応援大使 野木町： 野木町観光大使	壬生町： ・壬生・ふるさと夢大使 ・かんぴょう大使 野木町： 野木町観光大使 那珂川町： 那珂川町ふるさと大使
群馬県	・ぐんま観光特使 ・ぐんま大使 ・群馬国際観光特使		
	桐生市： ・桐生ふるさと大使 ・桐生PR大使 ・桐生市観光大使 藤岡市： 藤岡観光大使 富岡市： 富岡市ふるさと大使 渋川市： 日本のまんなかしぶかわ観光大使	みどり市： みどり市観光大使 玉村町： 玉村ふるさと大使 甘楽町： かんらふるさと大使 川場村： 川場村観光特使 片品村： 尾瀬の郷親善大使 嬬恋村： 嬬恋村観光大使	中之条町： ・中之条町観光大使 ・中之条町アドバイザー（3種） 昭和村： 昭和村ふるさと大使
埼玉県	・埼玉県特命観光大使 ・埼玉応援団（コバトン倶楽部）		
	八潮市： 生涯学習やしお大使 秩父市： 秩父観光大使 所沢市： ・所沢大使 ・所沢観光大使 坂戸市： さかと親善大使 行田市： 行田観光大使 新座市： 新座市観光親善大使 熊谷市： 熊谷市親善大使 さいたま市： さいたま観光大使 春日部市： かすかべ親善大使 蕨市： 蕨市PR大使	加須市： 加須市観光大使 久喜市： 久喜市くき親善大使 鴻巣市： 鴻巣市観光大使 草加市： ・草加市観光大使 ・草加文化大使 川越市： ・小江戸川越大使 ・小江戸川越観光親善大使 ・小江戸川越観光グルメ大使 本庄市： 本庄市広報観光大使 杉戸町： 杉戸町ふるさと大使 松伏町： まつぶし夢大使	みなの町： みなの観光大使 三芳町： 三芳町広報大使 長瀨町： 長瀨町観光大使 小鹿野町： ・小鹿野町観光大使 ・小鹿野町広報大使 寄居町： 寄居町ふるさと大使 小川町： ・小川町観光大使 ・小川町ふるさとアンバサダー 深谷市： 深谷市親善大使 東秩父村： 東秩父村ふるさと大使
千葉県	・千葉県環境大使 ・チーバくん大使		
	松戸市： ・まつど観光大使 ・松戸観光特命大使 館山市： 館山ふるさと大使 木更津市： ・木更津友好大使 ・木更津市観光大使 ・木更津PR大使 鴨川市： 鴨川ふるさと大使 成田市： 成田市農業大使 銚子市： 銚子ふるさと大使	匝瑳市： 匝瑳市観光大使 いすみ市： いすみ大使 白井市： しろいふるさと大使 安孫子市： 安孫子市ふるさと大使 茂原市： 茂原市観光大使 富津市： 富津市観光大使 南房総市： 南房総市観光大使 旭市： 旭市観光大使 大網白里市： 大網白里市観光大使	館山市： ・館山ふるさと特使 ・館山ふるさと大使 九十九里町： 九十九里町観光大使 長柄町： ながらグリーンツーリズム親善大使 御宿町： 御宿町観光大使 東庄町： 東庄町観光大使 酒々井町： 酒々井ふるさと大使
東京都	北区： 北区アンバサダー 台東区： たいとう観光大使 品川区： 品川区観光大使 大田区： 大田区観光大使（来～る大田区大使）	板橋区： 板橋区観光大使 葛飾区： かつしか観光大使 小金井市： 小金井市観光大使 武蔵村山市： 武蔵村山市観光大使	東村山市： 東村山しあわせ大使 国分寺市： 国分寺市観光大使 あきる野市： あきる野ふるさと大使 大島町： 御神火大使

	荒川区： 荒川区観光大使 中野区： 中野区観光大使	府中市： 武蔵国 府中大使 狛江市： 狛江市観光大使	小笠原村： 小笠原村観光親善大使 檜原村： 檜原村観光大使
神奈川県	・かながわ観光親善大使 ・神奈川環境大使（もったいない大使）		
	小田原市： ・小田原・城下町大使 ・小田原評定衆 藤沢市： ふじさわ観光親善大使	鎌倉市： 国際観光親善大使 南足柄市： 南足柄市ふるさと大使 平塚市： ひらつか観光大使	厚木市： ・あつぎ大使 ・あつぎ特別大使 松田町： 松田町ふるさと大使
新潟県	・新潟県元気大使 ・にいがた婚活応援大使		
	魚沼市： 魚沼特使 新潟市： ・新潟市観光大使 ・新潟市SWC健幸大使 新発田市： しばた観光親善大使 佐渡市： 佐渡ふるさと大使	長岡市： 越後長岡応援団 糸魚川市： 糸魚川ジオパーク大使 南魚沼市： 南魚沼市交流大使 十日町市： 十日町市観光大使 柏崎市： かしわざき大使	湯沢市： 湯沢市ふるさと応援大使 湯沢町： 湯沢町特別観光大使 出雲崎町： いずもざき観光大使 阿賀町： 阿賀町観光大使 関川村： 関川村ふるさと大使
富山県	・とやま大使 ・とやまふるさと使節 ・とやま名誉友好大使		
	氷見市： 氷見市きときと魚大使 射水市： 射水市観光大使 南砺市： 南砺観光大使	魚津市： 魚津蟹気楼大使 高岡市： ・高岡市国際親善大使 ・高岡観光親善大使	小矢部市： おやベグルメ大使
石川県	・いしかわ観光特使 ・石川県観光大使 ・ふるさと石川の医療大使		
	七尾市： 七尾ふるさと大使 輪島市： 輪島観光大使	能美市： ・能美市観光名誉大使 ・能美市観光大使	珠洲市： 珠洲市観光大使 能登町： 能登町ふるさと大使
福井県	・福井ふるさと大使 ・ふくいブランド大使		
	敦賀市： ・つるが大使 ・敦賀観光特任大使 鯖江市： 鯖江ブランド大使 小浜市： 若狭おばま御食国大使 福井市： 福井市観光大使	勝山市： ・かつやま大使 ・勝山観光特任大使 越前市： 越前市ふるさと大使 大野市： 越前おおのブランド大使 あわら市： 越前あわら観光大使	美浜町： 美浜町ハートフル大使 永平寺町： 永平寺ふるさと大使 若狭町： ・若狭町ふるさと大使 ・若狭町ふるさとサポーター
山梨県	・富士の国やまなし観光大使 ・やまなし大使		
	韮崎市： ・にらさきふるさと大使 ・にらさき親善大使 笛吹市： 笛吹市ふるさと大使	北杜市： 北杜市ふるさと親善大使 富士河口湖町： 富士河口湖町観光大使 市川三郷町： 市川三郷町観光大使	甲府市： 甲府大使
長野県	・長野県観光大使 ・おいしい信州ふーど大使 ・長野県森林大使		
	伊那市： ・伊那市ふるさと大使 ・伊那市特命大使 飯田市： ・信州飯田ふるさと大使 ・飯田市産業親善大使 大町市： 信濃大町観光大使 上田市： 信州上田観光大使 飯山市： ・飯山応援団菜の花大使 ・飯山市観光大使 小諸市： 小諸市環境大使 東御市： 東御市観光大使 松本市： 松本観光大使 千曲市： 千曲市観光大使	茅野市： 茅野市縄文ふるさと大使 佐久市： 「まほろば佐久」ふるさと観光大使 安曇野市： 安曇野市ふるさと観光大使 中野市： ・中野市音楽親善大使 ・伊那市特命大使 山ノ内町： 山ノ内町観光大使 箕輪町： 箕輪町ふるさと大使 飯島町： 飯島町ふるさと大使 辰野町： たつのふるさとパートナー 小海町： 笑顔大使・読書大使 長和町： ・黒曜石のふるさと親善大使 ・長和町ふるさと観光大使	坂城町： さかきふるさとサポーター 木曽町： ・木曽町サポーター ・木曽町すんき大使 山ノ内町： 山ノ内町観光大使 松川町： 松川町ふるさと大使 宮田村： 宮田村ふるさと大使 南箕輪村： 南箕輪村ふるさと大使 川上村： 川上村親善大使 豊丘村： 豊丘村ふるさと大使 阿智村： 信州阿智村ふるさと大使 木祖村： きそむらふるさと大使
岐阜県	・飛騨・美濃観光大使 ・岐阜ふるさとくらしの大使 ・ぎふ国際協力大使		
	多治見市： 多治見市観光大使 本巣市： 本巣市文化観光大使 郡上市： 郡上市夢親善大使 中津市： 中津市観光大使	土岐市： 土岐市観光大使 恵那市： 佐藤一斎 言志四録 普及特命大使 岐阜市： ・長良川鸕飼大使 ・ぎふ信長大使	大垣市： 大垣市交流大使 関ヶ原市： 関ヶ原観光大使 白川村： 白川村観光ふるさと大使
静岡県	・ふじのくに静岡特使 ・ふじのくに親善大使 ・ふじのくに観光大使 ・ふじのくに観光公使		
	沼津市： 燦燦ぬまづ大使 磐田市： 磐田市ふるさと文化大使 三島市： ・三島せせらぎ大使 ・三島市障がい者応援大使 ・三島市観光P R大使 下田市： ・下田市観光大使 ・下田市親善大使 御殿場市： 御殿場観光親善大使 小田原市： ・小田原評定衆	・小田原ふるさと大使 静岡市： ・静岡市観光親善大使 ・静岡市ふるさと観光大使 富士見市： 富士見市P R大使 浜松市： ・浜松市やらまいか大使 ・浜松市天竜ふるさと大使 ・浜松市春野ふるさと大使 島田市： 島田市ふるさと大使 富士市： 富士市観光親善大使	掛川市： 掛川市ふるさと親善大使 牧之原市： 静岡まきのはら大使 湖西市： 湖西市ふるさと大使 西伊豆町： 西伊豆町観光大使 東伊豆町： 東伊豆町観光大使 清水町： 清水町ふるさと大使 湯河原町： 湯河原町観光大使 三島村： みしま大使

愛知県	・愛知ふるさと大使 ・LOVEあいちサポーターズ		
	豊橋市： ・豊橋ふるさと大使 ・豊橋特別ふるさと大使 西尾市： 西尾市ふるさと大使 江南市： 江南市歴史観光大使 東海市： 東海市ふるさと大使	田原市： 田原市ふるさと大使 蒲郡市： 蒲郡市観光大使 多治見市： 多治見市観光大使 犬山市： ・犬山観光特使 ・犬山観光交流大使	常滑市： ・常滑市親善大使 ・常滑市政60周年PR大使 桑名市： 桑名はまぐり大使 知多市： 知多市ふるさと観光大使 美浜町： 美浜町ふるさと大使
三重県	みえの国観光大使		
	津市： 津ふるさと元気大使 鈴鹿市： 鈴鹿シティセールス特命大使 四日市市： 四日市市観光大使	鳥羽市： 鳥羽市海の環境大使 名張市： 名張市観光大使 松坂市： 松坂市ブランド大使	伊賀市： 伊賀市観光大使 熊野市： 熊野市観光大使 いなべ市： いなべ親善大使
滋賀県	滋賀ふるさと観光大使		
	彦根市： 彦根市観光大使 米原市： まいばらふるさと大使	守山市： もーりー守山ふるさと大使 安土町： 安土城観光大使	高島市： 高島市観光大使
京都府	京都府名誉友好大使		
	京都市： ・京都国際観光大使 ・京都市おもてなし大使 ・京都名誉観光大使 宇治市： 宇治市観光大使	長岡京市： 長岡京観光大使 福知山市： 福知山ドッコイセ大使 京丹後市： ・京丹後ふるさと応援大使 ・京丹後市観光大使	敦賀市： 敦賀観光特任大使 亀岡市： 京都・かめおか観光PR大使 伊根町： 伊根町ふるさとPR大使 大山崎町： 大山崎町観光大使
大阪府	岸和田市： 岸和田観光大使	和泉市： ・いずみの国和泉市観光大使 ・いずみの国和泉市PR大使 ・いずみの国和泉市ふるさと大使	堺市： ・堺名誉大使 ・堺親善大使
	大阪市： 大阪観光大使 豊中市： 高校野球発祥の地・豊中親善大使 東大阪市： ・東大阪市モノづくり親善大使 ・東大阪市観光大使 貝塚市： 貝塚市観光大使 松原市： 松原市観光親善大使 箕面市： 箕面市特命大使	寝屋川市： 寝屋川市ふるさと大使 泉佐野市： 泉佐野市観光大使 四条畷市： 四条畷市観光大使 吹田市： ええとこ吹田PR大使 泉南市： 泉南市観光大使	門真市： 門真市子育て支援親善大使 阪南市： 阪南市ふるさと大使 熊取町： 熊取町にぎわい観光大使 大阪市浪速区： 728（なにわ）大使
兵庫県	ひょうご観光大使		
	川西市： 源氏のふるさと大使 神戸市： 神戸大使 姫路市： ひめじ観光大使 赤穂市： 赤穂観光大使 福知山市： ドッコイセ大使 三木市： ふるさと三木応援大使 加西市： ふるさと大使加西観光大使 伊丹市： 伊丹大使	養父市： 養父市観光大使 加古川市： 加古川観光大使 宝塚市： 宝塚大使 明石市： ・明石ふるさと大使 ・明石たこ大使 ・明石こども大使 篠山市： 丹波篠山ふるさと大使 たつの市： たつのふるさと親善大使	宍粟市： 宍粟観光大使 芦屋市： 芦屋ふるさと大使 香美町： 香美町観光大使 猪名川町： 猪名川町親善大使「い〜な〜・夢大使」 新温泉町： 新温泉町観光大使 福崎町： 福崎町ふるさと大使
奈良県	奈良まほろば大使		
	奈良市： ・奈良市観光大使 ・奈良市観光特別大使 大和郡山市： やまところりやま観光PR大使	橿原市： 橿原市観光大使 五條市： 五條市観光大使 斑鳩町： 斑鳩町観光大使	川上村： かわかみ山幸彦大使 十津川村： 十津川郷観光大使
和歌山県	・和歌山ふるさと大使 ・和歌山県観光大使 ・わかやまパンダ大使		
	和歌山市： 和歌山市観光大使 有田市： 有田みかん大使 有田川町： 有田川町観光大使	太地町： 太地町観光大使 串本町： 串本ふるさと大使 白浜町： 白浜観光大使	九度山町： 九度山町文化・観光大使 みなべ町： みなべ町ふるさと大使 かつらぎ町： かつらぎ町観光大使
鳥取県	・とっとりふるさと大使 ・鳥取砂丘観光大使 ・とっとり健康づくり大使		
	鳥取市： 鳥取市観光大使 倉吉市： 倉吉市観光大使	湯梨浜町： 湯梨浜観光大使 江府町： 江府町ふるさと大使	湯梨浜観光大使若桜町ふるさと観光大使 北栄町： 北栄町ふるさと大使
島根県	・遣島使 ・しまねSuper大使		
	松江市： ・松江観光大使 ・松江文化夢大使 浜田市： 浜田PR大使 出雲市： 出雲観光大使	大田市： 石見の国おおだ観光大使 美郷町： 美郷町ふるさと大使 桜江町： 桜江ふるさと大使 斐川町： 斐川ふるさと大使（3種類）	隠岐町： 隠岐国観光大使 海士町： 海士町観光大使 知夫村： 知夫里島観光大使
岡山県	・おかやま晴れの国大使 ・岡山国際協力大使 ・おかやま国際観光親善大使		
	玉野市： 玉野ふるさと大使 新見市： にいみピオーネ大使 倉敷市： ・くらしき観光大使 ・倉敷ふるさと大使	高梁市： 備中たかはし伝えたいし 笠岡市： 笠岡思民大使 津山市： 津山市観光大使 浅口市： あさくち夢大使	井原市： 井原ふるさと大使 真庭市： 真庭観光大使 新見市： 新見市ふるさと大使 哲多町： 哲多ふるさと大使
広島県	ひろしま観光大使		
	広島市： 広島市特任大使	呉市： ・KURE CITY AMBASSADOR	庄原市： 庄原市ふるさと大使

	尾道市： 尾道観光大使 安芸高田市：安芸高田市観光大使	・くれ観光特使 福山市： 福山ふるさと大使（4種類）	府中市： 府中市ふるさと大使 神石高原町：神石高原町観光大使
山口県	・山口ふるさと大使 ・グローバル山口親善大使		
	下関市： しものせき海響大使 岩国市： 岩国市観光大使 長門市： ・長門ふるさと大使 ・みすゞふるさと大使 美祢市： 美祢市ふるさと交流大使 山口市： 山口市観光アンバサダー(大使)	周南市： ・周南ふるさと大使 ・周南志民 萩市： ・萩市観光大使 ・萩ふるさと大使 宇部市： 宇部ふるさと大使 柳井市： 柳井市ふるさと観光大使	光市： 虹ヶ浜盛り上げ大使 下松市： 下松ふるさと大使 津和野町：津和野町観光親善大使 田布施町：田布施町ふるさと応援大使
徳島県	・新鮮なっ！とくしま大使 ・阿波とくしま観光大使 ・徳島国際観光大使		
	徳島市： ・徳島ふるさと大使 ・徳島市観光大使 美馬市： 美馬市観光大使	三好市： 三好市観光大使 鳴門市： ・鳴門観光大使 ・鳴門市阿波おどりPR大使	阿南町： 阿南ふるさと大使 牟岐町： 牟岐町ふるさと大使
香川県	香川かがやき大使		
	高松市： 高松市観光大使 さぬき市：さぬき市ふるさと大使 観音寺市：観音寺市ふるさと応援大使 三豊市： 三豊ふるさと大使	東かがわ市：東かがわ市ふるさと大使 丸亀市： 丸亀市文化観光大使 小豆島町：オリーブ大使 まんのう町：まんのう町ふるさと観光大使	丸亀市： 丸亀市文化観光大使 小豆島町：オリーブ大使 まんのう町：まんのう町ふるさと観光大使
愛媛県	・伊予観光大使 ・えひめ海外協力大使 ・愛媛国体ひめっこスポーツ大使		
	四国中央市：四国中央市ふるさとアドバイザー 松山市： ・松山市スポーツかがやき大使 ・俳都松山大使 ・松山うたこころ大使	新居浜市：新居浜ふるさと観光大使 西予市： 西予市観光大使 大洲市： 大洲市きらめき大使 八幡浜市：やわはま応援隊	宇和島市：・宇和島市観光親善大使 ・伊達な宇和島観光大使 ・パール大使 鬼北町： 鬼北町食の大使
高知県	高知県観光特使		
	宿毛市： 宿毛大使 土佐清水市：土佐岬観光親善大使	南国市： 南国市観光大使 室戸市： 室戸市観光大使	馬路村： 馬路村観光大使
福岡県	アジア若者文化大使		
	大牟田市：大牟田大使 久留米市： ・くるめふるさと大使 ・久留米ふるさと特別大使 大川市： 大川市ふるさと大使 糸島市： 糸島ふるさと大使 柳川市： 柳川観光大使 古賀市： 古賀市ふるさと大使 飯塚市： いいづか観光大使	筑紫野市：筑紫野市ふるさと親善大使 八女市： 八女市茶のくに親善大使 みやま市：みやま市ふるさと観光大使 北九州市： ・北九州市観光大使 ・ひまわり大使 ・特命大使(文化・スポーツ・観光・環境) 田川市： 田川観光文化大使 うきは市： うきはふるさと大使	篠栗町： 篠栗町ふるさと観光大使 福智町： 福智町観光大使 みやこ町： みやこ町観光大使 添田町： そえだまち観光大使 芦屋町： 芦屋町ふるさと観光大使 東峰村： 東峰村ふるさと観光大使
佐賀県	・吉野ヶ里大使 ・吉野ヶ里国際親善大使 ・佐賀県知事 特別広報官		
	佐賀市： 佐賀はがくれ大使 唐津市： 唐津大使 伊万里市： ・伊万里文化大使 ・伊万里市観光大使 武雄市： 武雄ふるさと大使	小城市： 小城市親善大使 神埼市： 神埼市ふるさと大使 多久市： ・多久市ふるさと大使 ・多久市観光大使 嬉野市： 嬉野市観光大使	鳥栖市： 鳥栖市観光大使 有田町： 佐賀・有田ふるさと大使 基山町： 基山町ふるさと大使
長崎県	・長崎奉行 ・長崎県ブランド大使		
	壱岐市： 壱岐市観光大使 長崎市： 長崎ふるさと大使 佐世保市：佐世保観光ふるさと大使	松浦市： 松浦市観光大使 雲仙市： 雲仙ふるさと大使 五島市： 五島市ふるさと大使	小値賀町：おちか観光まちづくり大使 川棚町： 川棚町ふるさと応援大使
熊本県	・くまもと誘友大使 ・熊本国際観光大使		
	天草市： ・天草市観光特使 ・天草宝島親善大使 熊本市： わくわく親善大使 菊池市： 菊池市観光大使	八代市： 八代よかとこ大使 荒尾市： あらお観光大使 山鹿市： ふるさとやまが大使 人吉市： まちづくり親善大使	上天草市： ・上天草市観光親善大使 ・上天草市ふるさと観光大使 合志市： 合志市ふるさと大使
大分県	佐伯市： 佐伯市観光大使 別府市： ・別府ONSENツーリズム大使 ・観光温泉文化大使 国東市： くにさき観光親善大使 津久見市：津久見市観光大使	中津市： ・中津市特命観光大使 ・中津市観光大使 大分市： ・大分市観光大使 ・大分市観光特使 ・大分市スポーツ大使	宇佐市： ・宇佐市観光大使 ・宇佐市ふるさと応援大使 日田市： 水郷ひた観光親善大使 日出町： 日出町ふるさと親善大使
宮崎県	・みやざき大使 ・宮崎応援隊		
	西都市： さいとふるさと大使 延岡市： のべおか観光大使	都城市： みやこんじょ大使 小林市： こばやしPR大使	高原町： たかはるふるさと大使 高千穂町： 高千穂ふるさと大使

	日向市： 日向市ふるさと大使 日向市観光大使 日向のへべす大使	えびの市： えびの市親善大使 菊池市： 菊池観光大使 宮崎市： 宮崎市ニシタチ大使	三股町： みまたふるさと大使 高鍋町： 高鍋町ふるさと応援大使						
鹿児島県	薩摩大使								
	薩摩川内市： 薩摩川内大使 出水市： 出水ふるさと大使 鹿屋市： かのやばら大使 志布志市： 志布志市ふるさと大使 伊佐市： 伊佐ふるさと大使 鹿児島市： 鹿児島市ふるさと大使 始良市： 始良ふるさと大使	垂水市： たるみず大使 南九州市： 南九州市観光大使 日置市： 日置市ふるさと大使 指宿市： ・指宿親善大使 ・指宿観光大使 霧島市： おじゃんせ霧島大使 曾於市： 曾於市P R大使	瀬戸内町： 奄美瀬戸内観光大使 根占町： ねじめ大使 錦江町： 錦江町ふるさと大使 南大隅町： 南大隅町交流大使 与論町： ヨロンバナウル王国観光大使 宇検村： 宇検村観光大使						
沖縄県	・美ら島沖縄大使 ・新ウチナー民間大使								
	那覇市： 那覇市観光大使 糸満市： 糸満ふるさと大使 石垣市： ・石垣市親善大使 ・石垣市観光大使 ・石垣市国際観光大使 豊見城市： 豊見城市観光大使	竹富町： やまねこ観光大使 北谷町： 北谷町観光大使 本部町： 沖縄本部美らまち観光大使 南大東島村： 南大東島観光大使 大宜見村： 大宜見村ふるさと観光大使 渡嘉敷村： 渡嘉敷村観光大使	伊江村： ・伊江島観光大使 ・てるしのの島観光大使 ・伊江村観光親善大使 東村： 東村観光大使						
<北海道>釧路商工会議所：釧路ファイン大使／帯広市観光コンベンション協会：帯広市観光大使／十勝総合振興局・十勝観光連盟：とにかち観光大使／新冠町観光協会：にいかっふ観光大使／苫小牧観光協会：とまこまい観光大使／札幌商工会議所・札幌観光協会：札幌観光大使／江差観光コンベンション協会：江差観光ふるさと大使／ふらの観光協会：ふらの観光大使／小樽市観光協議会：小樽ふれあい観光大使／浦河観光協会：うらかわ観光大使／ジンギスカン食普及拡大促進協議会：ジンギスカン大使／利尻島観光協会：利尻島観光大使／真狩村観光協会：真狩村観光協会大使／オホーツク観光連盟：オホーツク観光大使／稚内観光協会：・稚内市ふるさと大使・稚内市観光大使／富良野地区広域市町村振興協議会：ふらのふるさと大使／上富良野観光協会：かみふらの観光大使／層雲峡温泉観光協会：層雲峡温泉観光大使／札幌商工会議所：札幌観光大使森県／よこほまホテル村：ホテル大使／青森ねぶた実行委員会：青森ねぶた観光大使／八戸前沖さばブランド推進協議会：八戸前沖さば大使／八戸観光コンベンション協会：八戸ふるさと大使／弘前商工会議所：弘前まちそだて大使／青森県はたて流通振興協会：青森はたて大使 <宮城県>宮城県宮城米マーケティング推進機構：食材王国みやぎ大使／石巻市観光協会：石巻観光大使 <秋田県>角館町観光協会：角館ふるさと観光大使／男鹿市観光協会：男鹿市観光大使 <山形県>酒田商工会議所：酒田ビジネス大使／寒河江市観光キャンペーン推進協議会：さくらんぼ観光大使／おいしい山形推進機構：おいしい山形大使 <福島県>浪江町観光協会：浪江町観光親善大使 <茨城県>大子町観光協会：大子町観光協会観光大使／グリーンふるさと振興機構：茨城さとやま大使／つくば市観光協会：つくば観光大使 <栃木県>栃木県酒造組合：酒々楽大使 <群馬県>伊香保温泉観光協会：伊香保温泉観光大使／高崎観光協会：高崎観光特使 <埼玉県>北本市まちづくり観光協会：北本市まちづくり観光協会大使／北本市観光協会：北本市観光大使／加須市観光協会：加須市観光大使 <千葉県>野田商工会議所：野田市えだまめ親善大使／東金市観光協会：東金市観光大使／九十九里地域観光連盟：九十九里地域観光連盟観光大使 <東京都>むらおこし協議会：八丈大使／八丈島観光協会：八丈ふるさと観光大使／八王子観光協会：八王子観光大使／浅草観光連盟：浅草観光大使／東京カットグラス工業協同組合：江戸切子親善大使／武蔵野市観光機構：む〜親親善大使 <神奈川県>多摩区観光推進協議会：多摩区観光大使／二宮町観光協会：二宮町観光親善大使 <新潟県>新潟県観光協会：にいがた観光特使／越後妻有郷観光協議会：越後妻有郷観光大使／糸魚川商工会議所：奴奈川市民／ふるさと上越ネットワーク：ふるさと越後大使／J A新潟：新潟米親善大使／新潟市サポーターズ倶楽部：新潟市サポーター／村上市地産池沼推進協議会：村上うんめもん大使 <富山県>富山経済同友会：立山大使 <石川県>珠洲市商工会議所：珠洲ふるさと観光大使／J A全農石川県本部：石川県産米親善大使／山代温泉観光協会：山代温泉観光親善大使／能登町「花の力」プロジェクト実行委員会：キリシマツツジ親善大使／鶴木商工会：鶴木・ふるさと大使 <長野県>商工会婦人部連合会：ふるさと女性大使／志賀高原観光協会：志賀高原観光大使／小諸市観光協会：小諸観光大使／白馬商工会：白馬小径観光大使／木曽観光連盟：木曽観光大使／千代地区まちづくり委員会：千代ふるさと大使 <岐阜県>下呂温泉観光協会：下呂温泉ふるさと観光大使／J A全農岐阜：飛騨牛・荒城郷まほろば文化村P R大使／恵那市観光協会：恵那観光大使 <静岡県>焼津商工会議所：焼津まちづくり親善大使／大須賀町商工会：江戸詰御意見番／森町産業祭実行委員会：遠州森町観光大使／小山町観光協会：小山町観光協会大使／館山寺温泉観光協会：浜名湖観光大使／焼津まちづくり推進委員会：焼津まちづくり親善大使／御前崎市観光協会：御前崎観光親善大使／大井川観光連絡会：奥大井観光大使／袋井市観光協会：袋井はっと観光大使／菊川市観光協会：菊川市ふるさと観光大使 <愛知県>美浜町観光協会：美浜町観光大使／犬山市観光協会：犬山市観光交流大使／半田商工会議所：・半田ふるさとサポーター・半田観光特命大使／西尾市観光協会：西尾市観光大使／愛西市観光協会：愛西市観光大使／奥三河観光協議会：奥三河ふるさと観光大使 <三重県>伊勢市観光協会：・伊勢市観光大使・伊勢市観光御師／南伊勢町観光協会：南伊勢町観光大使 <滋賀県>近江八幡観光物産協会：近江八幡観光大使／滋賀県警察本部：滋賀県交通安全ふるさと大使 <京都府>丹後広域キャンペーン協議会：私のふるさと丹後観光大使／京のふるさと産品協会：京野菜特命宣伝大使 <兵庫県>神戸市観光・ホテル旅館協会：KOBEL観光特使／加古川市観光協会：加古川観光大使／高砂観光協会：高砂観光大使 <和歌山県>和歌山県観光連盟：わかやま応援団／和歌山市観光協会：和歌山市観光発信人／那智勝浦町観光協会：那智勝浦町観光大使／すさみケンケンかつおブランド化委員会：すさみケンケン鰯大使 <鳥取県>境港商工会議所：フィッシュ（FISH）大使／米子市観光協会：米子市首都圏観光大使（よなご大使）／皆生温泉旅館組合：皆生温泉湯けむり大使／八頭町観光協会：八頭町観光大使 <岡山県>岡山名物さわら料理を愛する会：岡山さわら大使／岡山観光連盟：おかやま観光特使／倉敷観光コンベンションビューロー：倉敷ふるさと大使 <広島県>呉市豊町観光協会：豊町観光大使／三原市ふるさと情報発信協議会：三原市ふるさと大使／宮島町観光協会：宮島観光大使 <山口県>山口県酒造組合・山口県酒造協働組合：山口県地酒大使／関門海峡観光推進協議会：巖流島観光大使 <徳島県>全国徳島県人会連合会：徳島交流大使／にし阿波観光協議会：にし阿波観光大使 <香川県>詫間町観光協会：詫間町観光大使／琴平町観光協会：琴平町観光大使 <愛媛県>松山青年会議所：坊ちゃん大使 <高知県>四万十財団：四万十大使／まんさい実行委員会：まんさい親善大使 <福岡県>門司港レトロ倶楽部：門司港レトロ大使／久留米観光コンベンション国際交流協会：久留米観光大使／築上町観光協会：「豊」の国美食親善大使 <佐賀県>小城観光協会：小城観光協会大使 <長崎県>長崎商工会議所：長崎親善大使／対馬商工会青年部：対馬観光宣伝大使 <熊本県>球磨焼酎酒造組合：球磨焼酎大使 <大分県>豊の国かぼす大使会：豊の国かぼす特命大使／中津耶馬溪観光協会本耶馬溪支部：本耶馬溪観光大使／おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会：特任大使 <宮崎県>延岡観光協会：のべおか観光大使 <鹿児島県>本場奄美大島協同組合：本場奄美大島協大使／奄美観光受入連絡協議会：奄美観光大使／枕崎商工会議所：枕崎大使／鹿児島県漁業協同組合連合会：鹿児島おさかな大使／枕崎水産加工業協同組合：枕崎かつお節大使／鹿児島県陶業協同組合：薩摩焼大使／鹿児島県茶業会議所：鹿児島お茶大使／鹿児島県観光協会：鹿児島親善大使／霧島市観光協会：霧島市観光協会公認大使／徳之島観光連盟：徳之島観光大使 <沖縄県>久米島町観光協会：久米島観光大使／沖縄県もずく養殖業振興協議会：沖縄もずく大使／伊是名漁業協同組合：伊是名島モズク大使									
制度数	知事委嘱の制度	44団体	90制度	市町村長委嘱の制度	630団体	731制度	諸団体委嘱の制度	147団体	150制度
総計				821団体	971制度				

今も息づく KWAIDAN (怪談) の街 松江

松江観光大使 島村 治雄

秋になると松江はお祭りや怪談でにぎわいます。特に怪談については小泉八雲の怪談の朗読やゴーストツアーなど多彩な企画が催されて、多くの人が参加します。今年は9月6日小泉八雲の曾孫小泉凡氏と木原浩勝氏の対談“松江怪談談義”、10月14日に佐野史郎氏の“怪談の朗読会”、8月10日から10月26日までの間隔週土曜日に開催される“松江ゴーストツアー”などです。

特に人気なのは市内の怪談ゆかりの地を訪ねる松江ゴーストツアーです。これはロンドンのゴーストツアーに倣ったのかもしれませんが、夜のツアーなので話の舞台であるお寺を訪ねると怪談が生まれた現場に立ち、話を聞くことで一層臨場感あふれるスリルを味わうことができます。

小生は昭和20年3月の大阪大空襲で家を焼け出され、両親の故郷である松江に移住して14年間過ごしましたが、家から近くにある普門院(怪談の小豆磨ぎ橋の舞台)は小学生の時に胸をドキドキさせながら前を通ったものでした。また、教育実習の先生の中に怪談術の上手な方がいて、その話の怖さに身をすくませながら聞き入ったこともあります。

中学は藩主・松平家代々の墓のある月照寺の近くでしたので、部活のトレーニングと称して月照寺まで出かけて、怪談に出てくる大きな石の亀が背中に石の碑文を背負っているのを恐る恐る眺めた記憶があります。

これほど怪談が松江に息づいているのは1890年に松江中学教師として赴任したラフカディオ・ハーン(帰化して小泉八雲となる)が“KWAIDAN”他いくつかの著作で紹介したことによります。



ハーンは松江に1890年8月に赴任して1891年11月までわずか1年5カ月しか滞在しなかったのですが、その間『知られざる日本の面影』を執筆し、小泉セツと結婚し、お城の近く塩見縄手に自宅を構え、松江の人々との深い交流を通じて日本の良さを感得するなど日本への深い敬意と愛情を育みました。今までの外国人お抱え教師が自国の風習を固守し日本人を軽んずる感があったのですが、「ハーンは全く差別をせず、むしろ日本人の人情、心を称賛している」と当時の地方新聞に載ったといえます。

松江の人々はハーンを「へるん先生」と呼んで受け入れて親しく付き合い合いました。英語でヘルン(Heron)は鷺のことですが、ヘルンはその呼び名を喜び、自分の紋付の紋を鷺をあしらったものにしました。へるん先生の呼び名は後日、帝国大学や早稲田大学で講師をした時にも受け継がれています。

へるん先生は明治時代の欧米人と違い、訪日後すぐに日本に溶けこみ、日本文化を愛することができたのは幼少時代の生い立ちによるものと多くの人は説明しています。

父はアイルランド人でイギリス陸軍の軍医、母ローザはギリシャ人で、父のギリシャ赴任時に結婚したが、アイルランドに帰国後へるん先生4歳の時に離婚し、母はギリシャに帰ってしまったのです。父もインドに赴任したのでひとりぼっちになったへるん先生は大叔母の下で育てられました。

13歳の時にカトリック・イエズス派の寄宿学校に入りましたが、大叔母の破産により17歳の時に退学してしまいます。寄宿学校の時にロープで左目を傷つけてしまい、またカトリックの厳しい型にはまった教育に反発・反感を持ったため、アイルランドに伝わるケルト人たちの精霊(いたずら好きのレプラコーン、妖精のフェアリー、バンシーなど)の物語に惹かれていったのではないかと思います。(ちなみにハロウィーンはケルト人が秋の収穫を祝い悪霊を払う行事から始まっています)

アメリカに渡り、ニューオリンズの記者時代には貧民街の黒人たちと親しく交わり、仏領マルティニーク諸島に2年間滞在し、クレオールたちの生き生きとした生活ぶりを描いた立派な紀行文を作っています。へるん先生は権力社会ではなく、一般庶民の心情・文化への鋭い洞察力を持つ記者になったのです。

ニューオリンズ時代に万国博覧会に参加した日本人に興味を持ち、へるん先生は日本にカバン一つでやってきました。松江での1年5カ月の生活の中に彩りを添えるのは1891年2月、小泉セツと結婚したことです。

セツは日本語を読めないへるん先生のために人々に尋ね回り、松江の怪談や心情など懸命に話をしました。水木しげる先生の妖怪の話は子供の頃にのんのん婆から聞かされた話からですが、へるん先生の怪談はセツが拾ってきた話が始まりです。左目を失い、弱視であったへるん先生は特製の背の高い机に向かい、セツの話に聴き入りました。有名な『耳なし芳一』や『雪女』などもセツの話を元にしたものです。

ところで、松江の怪談に戻って二つの話を紹介します。

松江城の西方にあり歴代藩主の菩提寺である月照寺の中の六代藩主・松平宗衍公の廟所の前に大きな亀の石像があり、その背中に宗衍公の業績を記した石碑がでんと乗っかっています。当初は背中の石碑がなかったのですが、この大亀が夜な夜な歩き出て建物を壊したり、人を食ったりしましたので住職が説法をし、さらに背中に大きな石碑を載せてようやく落ち着いて動かなくなりました。大亀も自分の行為を心苦しく思っていたので住職の措置に感謝をしたとの話です。このように藩主の寺も怪談の一部になっていますので、松江は怪談の街と称してもいいのではと思います。歴代藩主はそれぞれ見事な彫刻を施した楼門を持ったお墓に祀られています。もちろん茶所松江ですから、月照寺にも茶室が設けられています。



もう一つの話は、月照寺の近くに、尼子氏の城があった広瀬城から移築された大雄寺(だいうじ)という法華宗のお寺があります。月照寺や普門院より小さなお寺ですが、山門は腰より下が石垣づくりの見事なものです。そしてこのお寺に残る怪談が“水あめを買う女”です。

大雄寺のそばの店に青ざめた顔をした女が毎夜水あめを買いに来るようになりました。店主は見知らぬ女を不審に思い、後をつけてみると大雄寺の中のお墓に消えていきました。墓を

掘り起こすと死んだ女のそばに水あめを持った赤ちゃんがニコニコ笑っていたのです。

このようにへるん先生は江戸の名残が残っている明治初期の日本において、家族、人々の情念や心理を洞察して40編を超えるKWAIDANを残して、令和の時代にも代々親から語り継がれて、松江の人々の心の中に息づいています。

『知られざる日本の面影』の中に出てくる「日本人の微笑」では日本人の心の奥、相手への心配りなど最近ようやく世界に知られるようになったことが、明治時代にへるん先生によって紹介されています。

山陰の古い街松江の面影、温かい心を味わうために、ぜひ現地へお越しください。

「生業で地域文化を興す／起こす」

小江戸川越 いいことクリエイション合同会社 代表社員 一瀬 要



会社勤めを辞めた10年前、いずれ人のする仕事が減って、失業者が地域の仕事にシフトし、「地域が主役の時代」になるだろうと考えました。しかし今は人手不足だと騒ぐ。しかしそれは過渡的なことだと思います。

実際に今、自動運転ロボットが話題になり、スーパーにはいつでも人を減らせるとばかりに自動レジがずらっと並ぶ。日本政府が掲げる「ソサイエティ 5.0」では、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）、Society 5.0と、社会を発展段階で分類しています。日本政府が描く次なる社会が「ソサイエティ 5.0」です。そこにはセンサーが環境・機器・人の情報を自動収集し、それを人工知能が解析（ビッグデータ）。工場では自動的にロボットが生産する絵が描かれ、人手は消えています。東京から人のする仕事が減っていく。しかしそれは地域にとっては人を取り戻す良い機会になります。

さて、地域が主役の時代では、「衣・食・住・健康（医療・介護）・人材（教育）」が地域で完結、自立した地域が思い浮かびます。現在の地域を自立する地域に変えて行く時、そこに新たな仕事生まれる。その時、東京に集中していた人達が移って来ます。地域に人が増えて消費が増えます。お金が地域を回り地域が賑わいます。

地域の自立では、地域の「農業」で食を自立、地域の自然エネルギーで電力の自立、衣・食・住・医療・介護・教育の最低限の自立を地域人がします。地域で及ばない所は今まで通り社会インフラや企業を利用します。医療と教育の高度な部分は国や複数地域で協力し合います。地域人の仕事の多くは、地域の「農業」、「六次産業化に関わる産業」そして「地域の文化体験観光や芸能」かと。そんな

な自立した地域では、食やエネルギーで海外の影響をあまり受けず、職住接近の生活をし、質素ながらも安心安全で心豊かな生活が思い浮かびます。

小江戸川越の事例です。「生業で地域文化を興そう」という活動に乗ってくれた団体さんについて。米とマコモ（真菰）を軸に生業をつくり、米にまつわる日本文化とマコモを使う神社行事を通じて、地域の生活文化を興しています。それに絡まるのは、食や栄養の啓蒙団体、食を研究する大学、マコモや米を祭祀で使う神社、プロ農家、米作りやマコモ栽培のサポーター、食材加工業者、広報するネット業者、広域流通業者、狭域流通業者、地域住民など。

健康に生活する知恵の文化、健康でいる食事の文化、米とマコモと生活の文化、自然をきれいにする神社行事の文化、農業体験や田舎生活体験の文化などを啓蒙しながら、地域文化とつながる生活を広めています。

私個人と「いいことクリエイション」は、関係するNPOや諸団体にも参加して、地域人の生業で地域文化を興す（起こす）活動を進めています。また地域の生業と芸芸アートのコーディネート、魅力の地域人紹介ビデオ、お取り寄せグループのお試し、地域連携の仕組み、まちコミ掲示板の運用、百縁が絡まる「百縁処」など、地域が主役の時代に向けた諸活動をしています。全国地域の方々とのご縁を頂けたらありがたいです。

（相亀「百縁処」で軒下ワークショップ）



酒田湊まつりで花火ショーを堪能

酒田ふるさと観光大使 鴨川 キヨ

8月2日から3日にかけて行われた酒田湊まつり。太陽が日本海へと身をひそめる頃、人々が集まり、活気づき始める。2日は「甚句流し」、3日は「花火ショー」。昭和4年（1929）から90年続いている花火ショーで、最上川河川公園で1万2000発の花火が夏の湊町を色鮮やかに染めた。

今年のテーマはふるさとの思い出。スタートは10号玉が10発同時に打ち上げられ、大空中ナイアガラなどが次々と会場を彩った。流行歌やジャズなどの音楽に合わせて花火が打ち上げられる。

令和元年の花火ショーは山形市出身の歌手・朝倉さやさんのカウントダウンから始まり、1000mを超えるスーパーワ

イド花火。愛と青春を音楽に乗せて華やかな色彩が打ち上げられ、愛と感動に満ちた花火ショーが開幕した。

その後、人生華やかにする鼓動と幻想的なシーンの「水上アートスペクトル愛の不思議」。次いで朝倉さやさんと芸術花火のコラボレーションや、酒田の名物「市民号」と、東北随一の水上スターマインによる地上と天空の競演が続く。子供たちも楽しめるキャラクター花火や創造花火も次々登場。最後は母なる最上川を超ワイドスターマイン大空中ナイアガラで夜空に大車輪の花が咲いた。

年々すばらしい花火に感謝。大勢の観客の大きな歓声と拍手にもありがとう！ 港町酒田の発展を祈ります。



(特非) NBCR対策推進機構理事

佐藤富士郎

「鉄と魚とラグビー7連覇のまち」釜石

私のふるさと岩手県釜石市は「鉄の街」で知られますが、父は新日本製鐵所になる前の富士製鐵所勤めで、私の名前も富士製鐵の「富士」を取り、「富士郎」と命名されました。

1989年創設の「21世紀を考える会」は新日鐵から始まり、製鐵系各社とNTT・JRに広がるが、これも新日鐵つながりの縁で、今は運営役員として活動しています。

鉄の街・釜石は1857年、盛岡藩出身の大島高任が洋式高炉での製鐵に成功したのが始まり。1880年、官営釜石製鐵所が開業、日本で三番目の釜石鉄道が敷かれた（新橋～横浜、京都から神戸に次ぐ開業）。1970年には富士製鐵と八幡製鐵が合併し、新日本製鐵所となりました（2019年、新日本製鐵から日本製鐵に社名変更）。

新日鐵とともに同社釜石ラグビー部が強豪に成長、1985年には同部が日本選手権日本一7連覇を達成し、北の鉄人と呼ばれるようになりました。今回のラグビーワールドカップ開催はその歴史と東日本大震災の復興を背景にしたもので、今回の12会場のうち唯一、このためにスタジアムを建設しました。

私はNBCR危機管理活動をしている立場で、ラグビー開催に当たって9月に釜石市を訪れ、副市長、危機管理監、消防署、海上保安部、医師会会長を挨拶回りし、情報資料を提供してきました。

ワールドカップの試合前には選手や観客が犠牲者に黙

祷を捧げ、復興を誓いましたが、こんな世界イベントは地元にとっても一生に一度のことで、市民もおもてなしの心で迎えました。

10月13日のカナダ戦が台風19号の影響で中止となったのは残念でしたが、中止後、選手たちは釜石市に残り、突然のボランティアに参加され、住民から感謝の声が寄せられました。カナダ代表の行動に感激、そして感謝です。

さて、釜石のもう一つの特徴が「魚」で、東北の一漁村が近代の製鐵業の発展とともに水産業が発展。世界三大漁場を背景に、1980年代には年間100億円超の水揚げを誇りました。鮭や鯖などのほか、ワカメ、ホタテ、牡蠣の養殖も盛んで、現在も魚のまち釜石を支えています。

2011年から8年余りが経過しました。国内外から温かく見守りいただき、釜石は復興しています。今年3月には三陸鉄道リアス線が8年ぶりに運行を再開。また釜石と秋田県を結ぶ「東北横断道釜石秋田線」も全線開通しました。32年の歳月をかけた悲願の達成で、三陸沿岸の歴史の転換期ともいえるまちづくりが進んでいます。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



函館バル街、サントリー地域文化賞受賞を喜ぶ

はこだて観光大使 浅田 和幸



チケットと引き換えに街の飲食店を食べ・飲み歩くイベント「バル街」の発祥、「函館西部地区バル街」が8月、地域文化の発展に貢献した個人や団体を顕彰する「サントリー地域文化賞」を受賞した。街の賑わい創出を後押しし、同様のイベントを全国各地に広めたことなどが受賞の理由だ。

バル街はスペインのバル（BAR＝軽飲食・居酒屋）で庶民が気軽に飲み食いしながらコミュニケーションを楽しむ文化を模したイベントで、イベント参加店を掲載したマップを頼りに店をはしご歩きし、事前に購入した5枚つづりのチケット1枚で参加各店が工夫をこらしたつまみ（ピンチョー、ピンチョス）とドリンクを味わえる仕組み。

スペイン・バスク料理店主の深谷宏治さんらが2004年に同市で開いた「スペイン料理フォーラム」の前夜祭として催したところ、継続の要望が殺到。料理人仲間や市民が街への思い

を共有し、歴史的建造物が残る同市西部地区の魅力再発見につなげたいとの願いから毎年恒例のイベントに発展した。

1日限りのイベントはその後、春、秋の年2回開催、以来今年9月で32回を迎え、当初400人程度だった参加者は4700人にも膨れ上がった。

参加者は普段、利用したことのない店にも気軽に入れ、新たな店や街のスポット発見につながるほか、知らない人同士の交流が生まれる一方、店にとっても新規顧客や新規メニューの開拓につながるなど、双方にプラスとなる。

この取り組みが地域活性化につながると注目を浴びて各地に広がり、呼び名は「〇〇バル」、「まちバル」など様々だが同様のイベントが全国で数百にも達するという。

筆者も何度か参加し、各店の腕によりをかけたつまみを楽しんだ。このイベントを運営する市民グループとは呑み仲間で、9月下旬に東京で開かれた受嘱式の後、久方ぶりに再会し、祝杯を挙げた。彼らの活動がさらに発展し、街の元気につながることを期待したい。

写真は函館西部地区バル街実行委員会HPより



「被災地域の酒を飲む会」 を100回 続けて

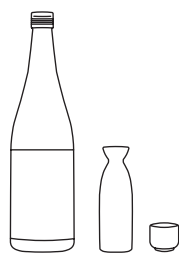
NPO地域交流センター代表理事 橋本正法

本年9月11日、被災地域の酒を飲む会100回記念交流会を、神保町の「ブックカフェ二十世紀」で開催しました。3.11をテーマにした“飲み会”ですが、当日は50名近い参加があり、ご縁をいただいてオカリナ奏者の善久さん、福島出身のギタリスト井上仁一郎さんの演奏を楽しみ、参加メンバーゆかりの岩手・宮城・福島の酒を味わい、空き瓶の山を築いた楽しい一夜でした。

第1回は平成23年6月15日、西新橋の都市小屋“集”で開催しました。その時は「被災地域の食と酒を楽しむ会」と名乗りました。盛岡市で農業を営む知人から「震災でみんなが避難してしまい、野菜が全く売れなくて値が付かない」という話を聞いていたので、会で彼の野菜を使うことにしました。ところが当日夕方になっても何も届かない。電話してみると、「昨日は雨で収穫さ出来なかったから、今日出しますけ」とのこと。それだと間に合わないのだが、「いらない」とも言えず、翌日届いた3箱分の野菜は手分けして売って歩きました。

第3回から毎月11日開催（土日休日の場合は前後で調整）と決めました。第11回からは「食」を外して「被災

地域の酒を楽しむ会」に変更しましたが、その後、「楽しむ」は被災者に失礼だという指摘を受けて「被災地域の酒を飲む会」に改称しました。また、都市小屋“集”が平



成27年5月末に閉店したので、一時は住所不定となりましたが、同年8月からはブックカフェ二十世紀で開催しています。

当会はゲストがいる時もあれば、ゲストなしの雑談会の時もあります。これまでのご縁によって様々な方に参加いただけてきました。被災された方の生々しい話、被災地支援をしている方の現状報告のほか、いわき市出身の神田香織師匠の講談会を催したこともあります。また、3.11に限らず、熊本地震や西日本豪雨など他の災害をテーマに話を聞いたり、その地域のお酒を用意したりと、柔軟な運営をしています。

参加人数もその時々。お酒が足りなくなって急いで酒屋に走ったこともあれば、参加者がゲストと私の2人だけということもありました。爾来、参加者が急に増えても慌てない、少なくとも気にしないことにしています。

東日本大震災から早8年7ヶ月、いまだに東北沿岸被災地域は復興の途上です。当会の最終回はまだまだ先のです。

◆ ◆ ◆
(これまで当会の全国大会や各交流会に参加・協力いただき、「ブックカフェ二十世紀」で始めた「ふるさとサロン」にも共催いただいている地域交流センター代表理事の橋本氏にご寄稿いただきました。皆様もぜひ「被災地域の酒を飲む会」にご参加ください)



◆新会員のひと言◆

ふるさとを愛する一人として

首都圏なるせ会幹事長 佐々木正蔵

秋田県の東南端、奥羽山脈を境に岩手県と宮城県に接する村。村の総面積の93%が山林原野、そのほぼ半分を国有林が占める。人口2500人余り、雪国秋田屈指の豪雪地帯という典型的な山村が私のふるさと「東成瀬村」です。

「美しい星空日本一」認定（1999：環境省）や「日本で最も美しい村」連合加盟は、魅力ある自然環境の証と自慢する。自慢の環境は良質な産物を生み出す。村の特産物は何と言っても山菜類。「わらび」や「ぜんまい」を筆頭に、自然の恵みをたっぷりと含んだ山菜は、どれをとってもやわらかくて旨い。生活排水を一切含まない、清流で育てられる東成瀬産「あきたこまち」は、それだけで「ブランド米」になり得ると密かに期待しているのだが。

若い頃、「生まれはどこ？」と聞かれるのをとても苦手にした。なかなか、「東成瀬村」が出てこない。「せめて町だったなら」



と。笑い話のような可笑しさが懐かしい。

今年の5月のこと。SNS上で「なみへい故郷自慢プレゼン会」を目にした。唯に「故郷自慢」であるならばして騒ぐことでもないが、我がふるさと「東成瀬村」が登場するとなれば、これは少々穏やかではられない。気づいたら参加申し込みをしていた。

プレゼン会は期待どおりだった。プレゼンターと参加者がひとつに、とても和やかな雰囲気を醸し出していた。そのプレゼン会で全国ふるさと大使連絡会議の浅田和幸さんとお会いし、入会の誘いを受けることになった。首都圏なるせ会（首都圏・東成瀬村出身者の会）の会員は村の許可を得て「仙人の郷・特命大使」を名乗っているが、村には正式のふるさと大使制度はない。ただ、連絡会議の会員資格に、「ふるさとを愛する人々等」とある。これなら、私でも該当すると思い、入会した次第である。

現在私は首都圏秋田県人会連合会の理事をしている。ふるさと秋田を、ふるさと東成瀬を、郷土を愛し応援する友人たちの気概にいつも勇気と元気をもらう。その輪が大きく広がる。ふるさと大使連絡会議のみなさんとの情報交換に期待感を抱いて。

◆ 新年会員交流会のご案内 ◆

恒例の新年会員交流会を1月28日(火)に開催します。令和最初の新年を祝うとともに、新たなスタートに向けた交流の場にしたいと思います。皆様の知恵と経験、ネットワークを生かし、少しでもふるさと・地域の元気づくりに資することができれば幸いです。

恒例の講話等は未定ですが、改めてご案内させていただきます。会員の皆様はもとより、ふるさと・地域を愛する方をお誘いあわせのうえ、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

1. 日 時：2020年1月28日(火) 午後6時00分～9時00分
2. 場 所：「KKR東京」11階「丹頂の間」
◇東京都千代田区大手町1-4-1 TEL 03-3287-2921
◇地下鉄東西線「竹橋駅前」の3b出口直結、千代田線大手町駅c2出口
3. 会 費：6000円(振込は会費振込口座と同じでお願いします)
4. 飲み物：地酒・ワイン・焼酎などの持込を歓迎します
お申し込みの際は、出席者のお名前と肩書・連絡先を記入してメール又はFaxでご連絡ください。

メール：kasatora7@jcom.home.ne.jp又はFax 03-5640-1433

第3回 ふるさとサロンのご案内

ふるさとの自慢や紹介、アピールをしながら飲食し、交流する「ふるさとサロン」の第3回を11月13日(水)に催します。

1、2回はアンテナショップ館長、県の東京事務所副所長にお越しいただきましたが、今回は東京・二子玉川にマルシェ「ふたご座」を出店している「くらしサポート」代表の木村隆紀さんをゲストに、宮城県の特産品をメインにした飲食の場にする予定です。

今後も柔軟に随時、内容を変化・充実させていきたいと考えています。

ふるさと大使全国大会のすぐ後で、十分な準備が整わないかもしれませんが、ぜひご参加をお願いします。

■第3回ふるさとサロン■

日時：11月13日(水) 午後6時半～
会場：「ブックカフェ二十世紀」
(1階は古書店「@ワンダー」)
(神田神保町2-5-4開拓社ビル2F)
TEL：03-5213-4853
半蔵門線・都営新宿線A1出口を出て右側すぐ

歓迎！新しい会員のご紹介

2019年7月～9月入会

<個人会員>

佐々木 正蔵(仙人の郷・特命大使、首都圏なるせ会幹事長)

【浅田和幸氏紹介】

<お断り> 前号で「茨城県視察ツアー」のご案内をしましたが、都合により期日未定で延期しました。年が明けて見学等に都合の良い時期をみて企画し、改めてご案内致します。

全国ふるさと大使連絡会議の概要

(2019年9月末現在)

- 設立年月 1996年8月8日
- 目 的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」および「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする
- 会員の資格
 - ①ふるさと大使
 - ②ふるさと大使委嘱団体関係者
 - ③ふるさとを愛する人々等
- 会 費 所定の会費(3,000円以上、団体会員は10,000円)もしくは相応の貢献寄与をしなければならない

2019年9月末現在の会員構成

大使会員	108名
団体会員	21団体
一般会員	142名
合 計	271名

確認された大使制度

(2019年10月現在)

県知事が委嘱	44団体	90制度
市長村長が委嘱	630団体	731制度
諸団体等の長が委嘱	147団体	150制度
合 計	821団体	971制度

2019年度年会費納入のお願い

年会費は個人会員3,000円以上(3,000円以上大歓迎)、特別会員5,000円、団体会員は10,000円です。2019年度年会費の納入をよろしくお願いいたします。

*郵便振替

加入者名—全国ふるさと大使連絡会議 口座番号：00190-7-149658

*郵便振込

店名—038 普通7211051 口座名：全国ふるさと大使連絡会議

*銀行振込

三菱UFJ銀行 亀戸支店 普通0173146 口座名：全国ふるさと大使連絡会議

編集後記

今回はふるさと大使全国大会の日程が例年より遅くなったのに合わせ、かわら版の発行も遅くなり、申し訳ありません。さて、ご覧のように大使制度の一覧表を作り替えしました。膨大な数の制度を小さな文字で記載していましたが、レイアウトを変えることで少しは読みやすくなったでしょうか。制度の広がり歓迎ですが、数より質を考え直す時期に思えます。委嘱側が大使に何を期待し、どのように支えるか、また大使は何ができるか、双方で知恵を絞る必要があります。

今秋の台風・豪雨による河川の氾濫やがけ崩れを見ると、自然の保全とインフラの保全の大切さを痛感する。ただ、その両方が地方・過疎地域ほど手薄になっているのが現状でしょう。その結果、住む人が減り、さらに国土が荒廃する。そんな姿を子や孫に残したくないものです。

新たに始めた「ふるさとサロン」はまずは順調な滑り出しです。いろんな地域の人と話題、産品が集まる交流の場を定着させるため、ぜひ皆様のご参加・ご提案をお待ちしております。

ふるさと大使かわら版 2019年11月5日—令和元年秋季号— (通巻93号)

◇発行：全国ふるさと大使連絡会議(代表＝浅田和幸)

◇編集責任者：浅田 和幸

◇事務局：〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-3-1-603

全国ふるさと大使連絡会議

TEL：080-5002-6432 FAX：03-5640-1433

Email：kasatora7@jcom.home.ne.jp